

2021年度（2022年3月期） 第3四半期業績概況

2022年2月8日

H.U.グループホールディングス株式会社

（証券コード：4544）

- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDAの数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。
- ※ 「親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益」を「当期（四半期）純利益」と省略する場合があります。
- ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
- ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)

臨床検査薬事業 : IVD (In Vitro Diagnostics)

ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)

- ※ 2021年度第1四半期より報告セグメントを変更しております。本資料は過去実績も遡及し、変更後のセグメントの報告区分に基づき作成しております。
- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2020年度1-3Q : 1USD = 106.11 JPY 1EURO = 122.38 JPY

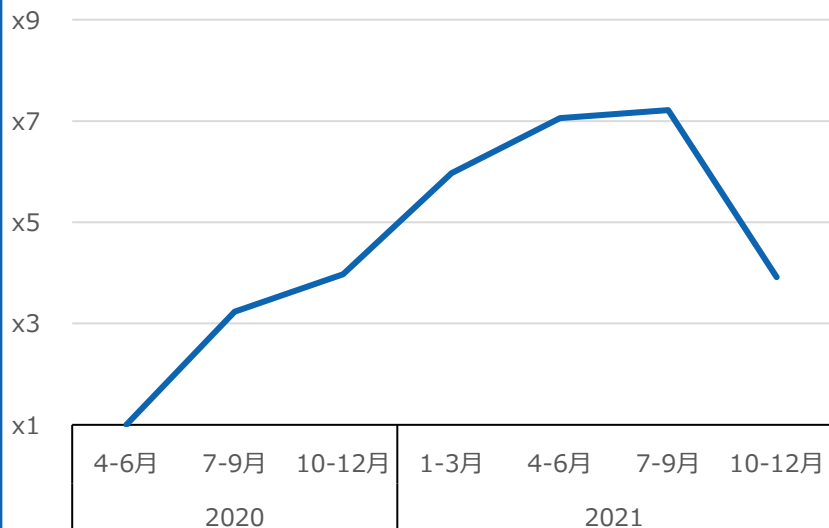
2021年度1-3Q : 1USD = 111.11 JPY 1EURO = 130.61 JPY

2021年度第3四半期のトピックス

新型コロナウイルスPCRおよび特殊検査受託状況のトレンド

PCR検査受託状況 (新型コロナウイルス関連)

2020年4月-6月の受託総数を1とした場合の増加率^{※1}

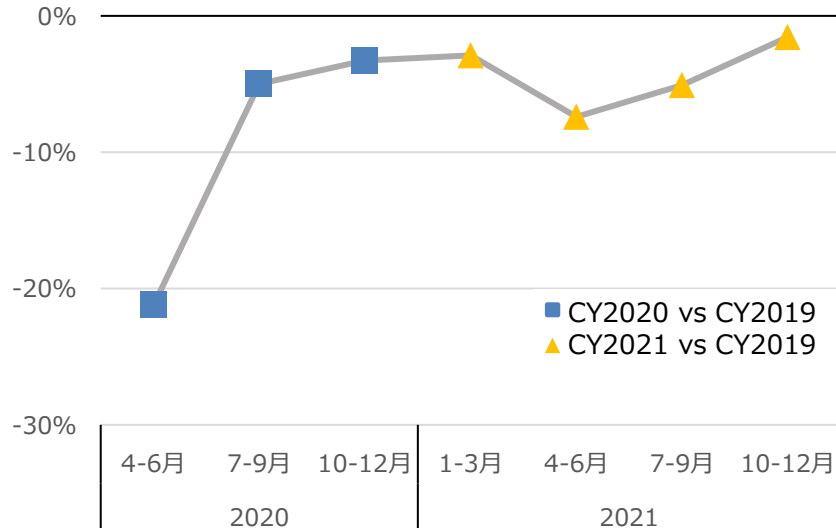


- 検査受託数は感染者の数と連動
(10月11月は減少、12月以降増加傾向)

※1 SRL、日本臨床の全国での受託

特殊検査の受託状況 (新型コロナウイルス関連検査を除く)

特殊検査ID数^{※2}のCY2019年同期比

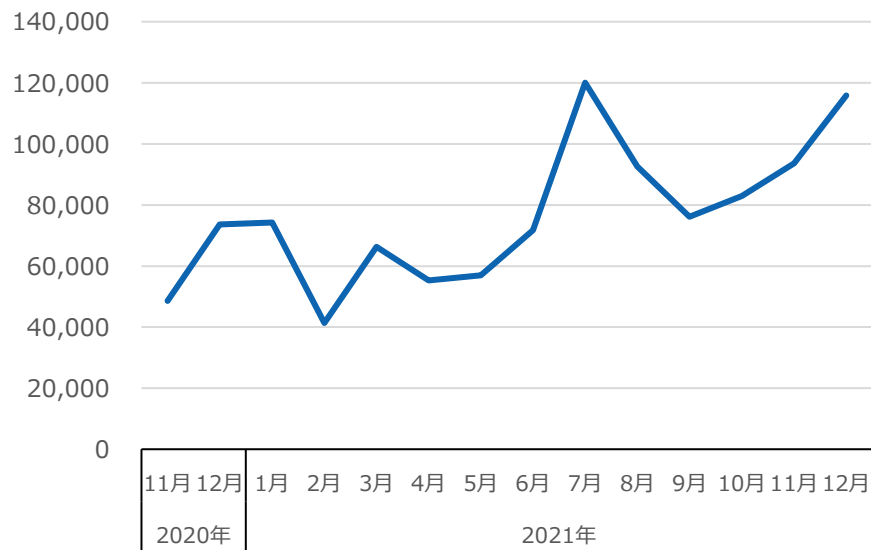


- 新型コロナウイルス影響が顕在化する前の
レベルを下回る水準で推移

※2 八王子ラボ受付分、稼働日調整後

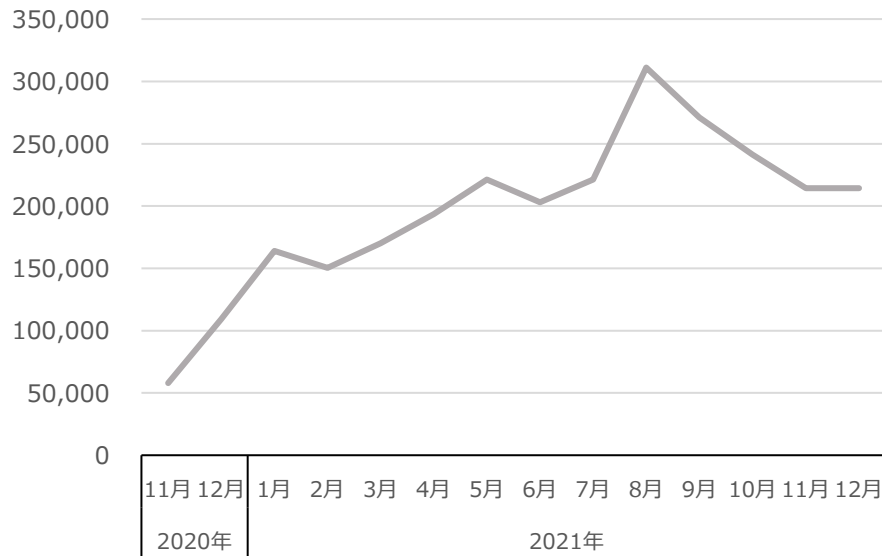
新型コロナウイルス高感度抗原定量検査実施数のトレンド

空港検疫所での月次抗原定量検査実施数[※]



- 年末に向けて需要が増加
- 1月も約3,000件/日レベルが継続

医療機関における月次での高感度抗原定量検査実施数[※]



- 高水準の需要が継続し、1月以降はさらに増加

新型コロナを取り巻く環境の変化と当社の今後の方向性

環境の変化（現状）

今後の方向性

診療報酬点数 の改定 (2022年4月 以降)

- PCR検査（外注）：1,800点→700点
（2022年3月末までは経過措置として1350点）
- 抗原定量検査：600点→560点
- 抗原定性検査：600点→300点
（インフルエンザウイルス抗原との同時検出は
600点→420点）

- 改定幅の小さい抗原定量検査を積極的に拡販

空港検疫所

- 入国者数の上限規制は継続
（3,500人/日まで）
- 入国時の抗原定量検査に加えて、宿泊施設
待機中に数回の検査要請

- 入国者への抗原検査の安定提供
- 待機者への検査需要の取り込み

海外展開

- 米国でのコロナ検査の実態を鑑み、FDAへの
高感度抗原定量検査試薬の承認申請を
取り下げ

- 国内外の抗原検査需要増加への対応にフォーカス（定量、キット）
- FDAに対しては引き続きAβ試薬の承認取得へ向けて連携

通期連結業績予想の修正

(億円)

	11月9日修正予想 通期 (利益率)	2月8日修正予想 通期 (利益率)	差異	
			増減	増減率
売上高	2,547	2,673	+126	+4.9%
EBITDA	507 (19.9%)	585 (21.9%)	+78	+15.4%
営業利益	355 (13.9%)	440 (16.5%)	+85	+23.9%
経常利益	337 (13.2%)	425 (15.9%)	+88	+26.1%
当期純利益	235 (9.2%)	270 (10.1%)	+35	+14.9%
ROE	19.2%	21.7%	+2.5pt	
ROIC	10.7%	13.7%	+3.0pt	

【通期連結業績予想修正の理由】

- ① 第3四半期 ・IVDを中心に国内外における新型コロナウイルス関連検査製品需要が想定を上回って推移
- ② 第4四半期 ・1月以降の新規感染者数の急増を背景とした新型コロナウイルス関連検査・製品需要の増加
・新セントラルラボ関連の一時費用の一部を来期へ持ち越し

※ 期末配当予想 (1株当たり63円) は変更無し

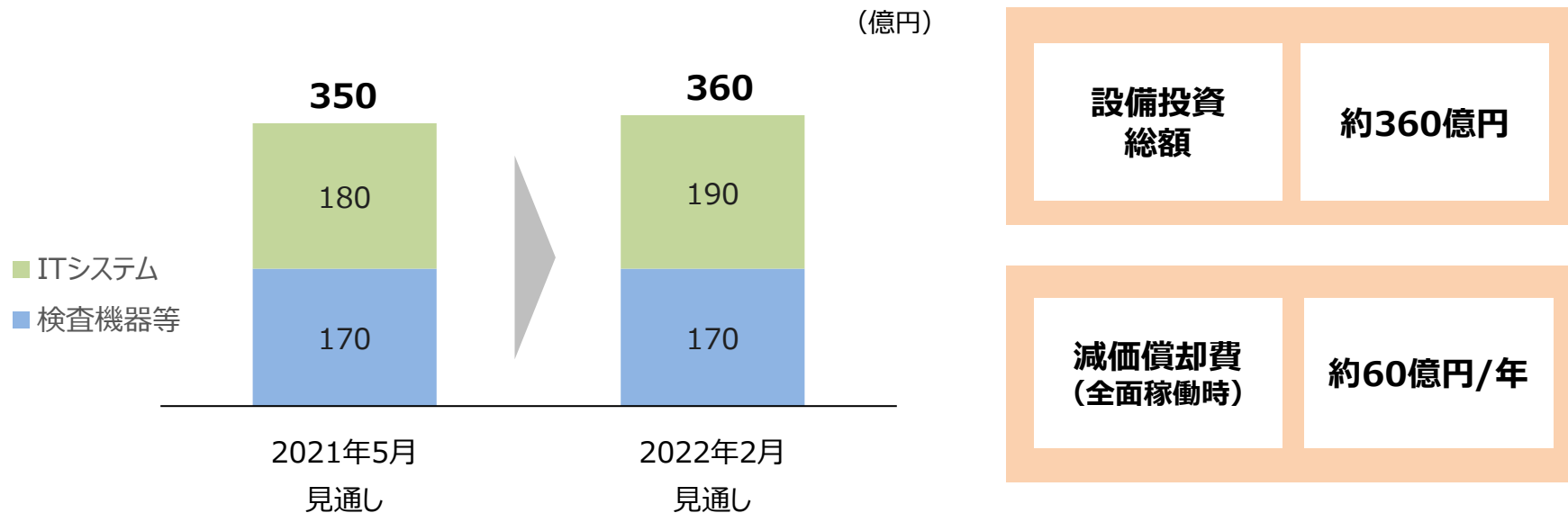
AkirunoCube : ①稼働結果

- 1月4日 第1期の一部が稼働
- プロジェクト全体の遅れにともない、一部で追加検証を実施
 - 追加検証を優先し、5月までを段階稼働期間とする
 - 新関西ラボ：資材高騰などの影響も含め、稼働時期について再検討中

		2021	2022				2023				2024	
		10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
AkirunoCube	第1期		段階稼働	フル稼働								
	第2期			フル稼働								
ラボ再編		地域ラボのSTAT※化を推進										
新関西ラボ												稼働時期再検討中

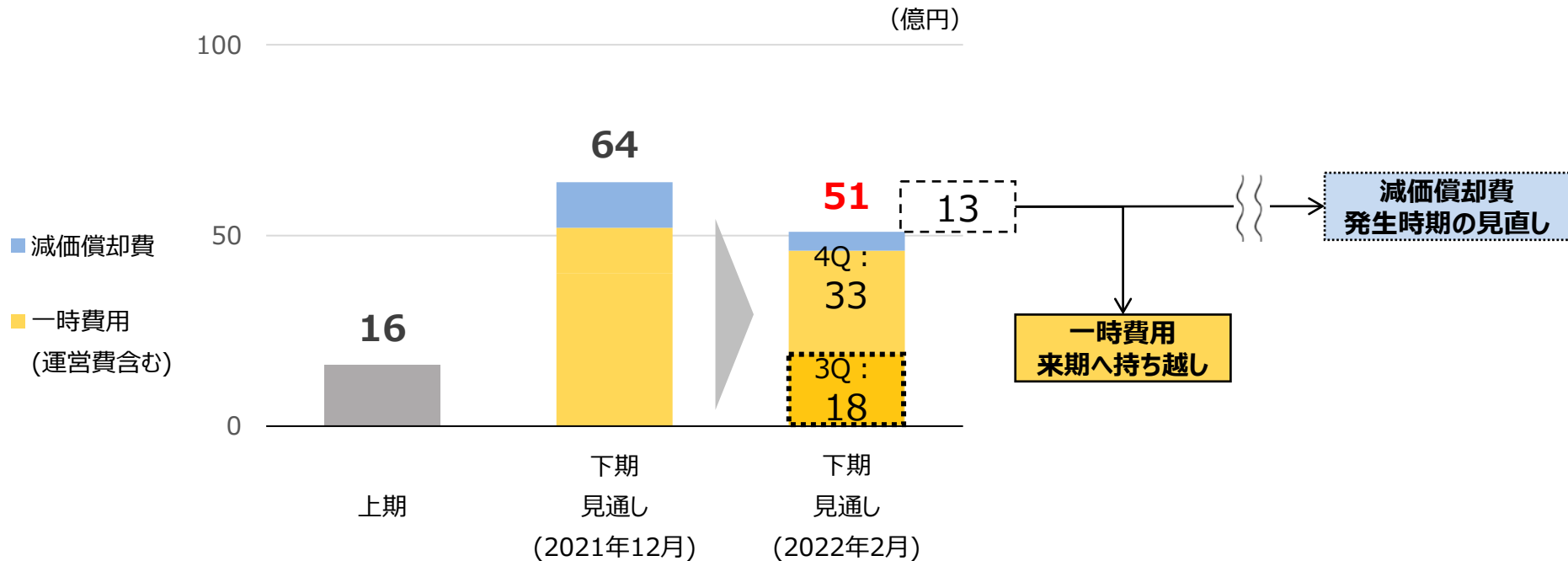
AkirunoCube : ②設備投資額の見直し

- ITシステム投資額が約10億円増加し設備投資総額は約360億円
- 全面稼働時の減価償却費は約60億円/年



AkirunoCube : ③今期の費用の状況および見通し

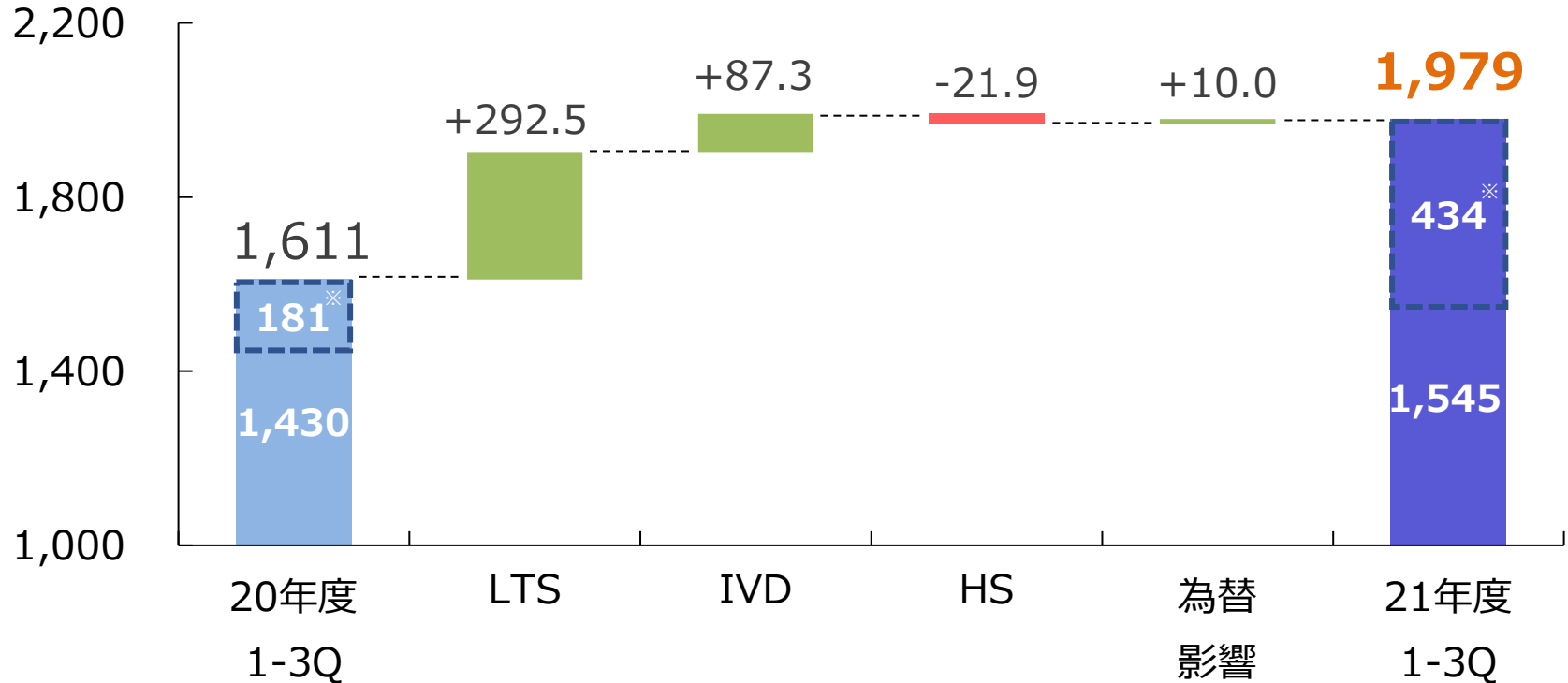
- 3Qには約18億円の一時費用が発生
- 一部一時費用の来期への持ち越し、段階稼働にともなう減価償却費の発生時期見直し等によって、4Qは約33億円の見込み



2021年度第3四半期業績概況

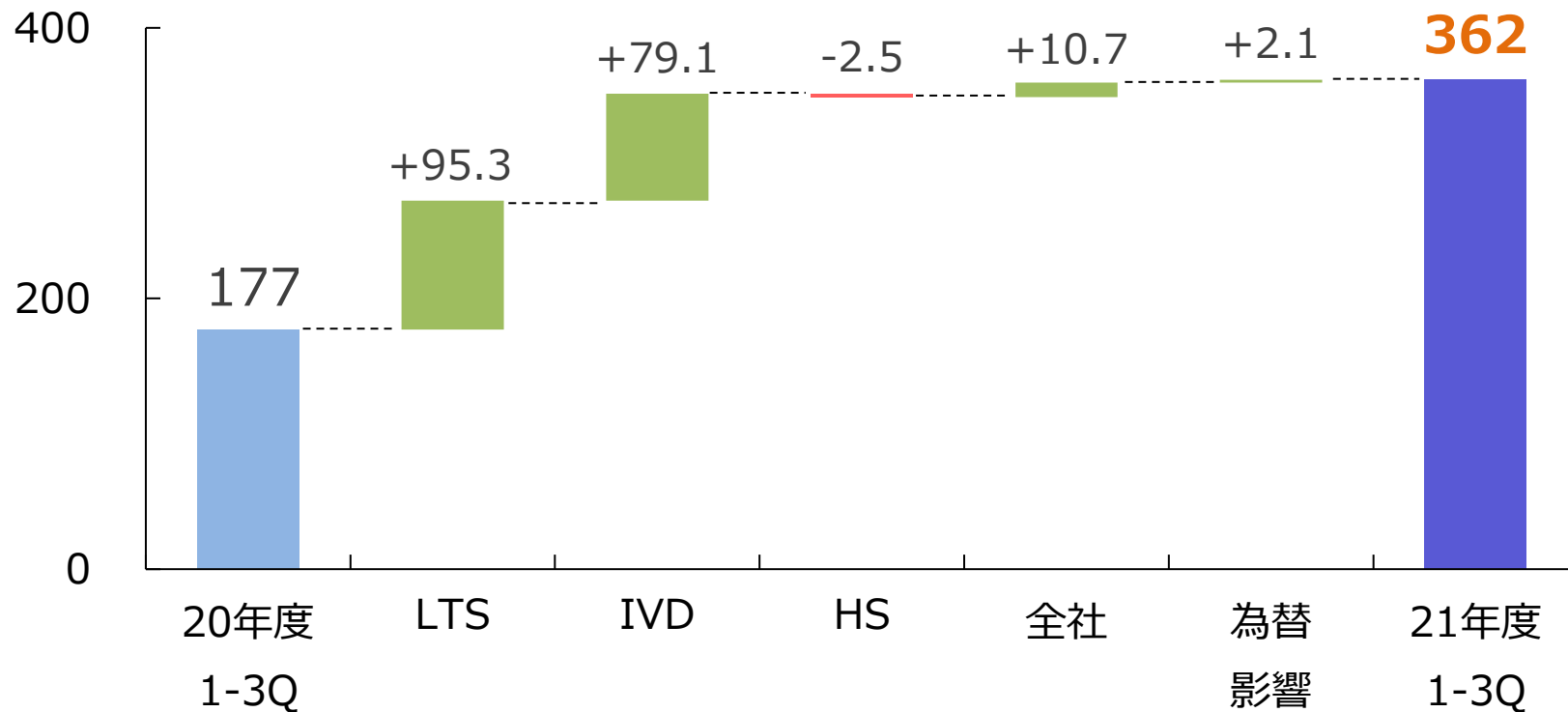
連結売上高 対前年同期比較

(億円)



連結營業利益 対前年同期比較

(億円)

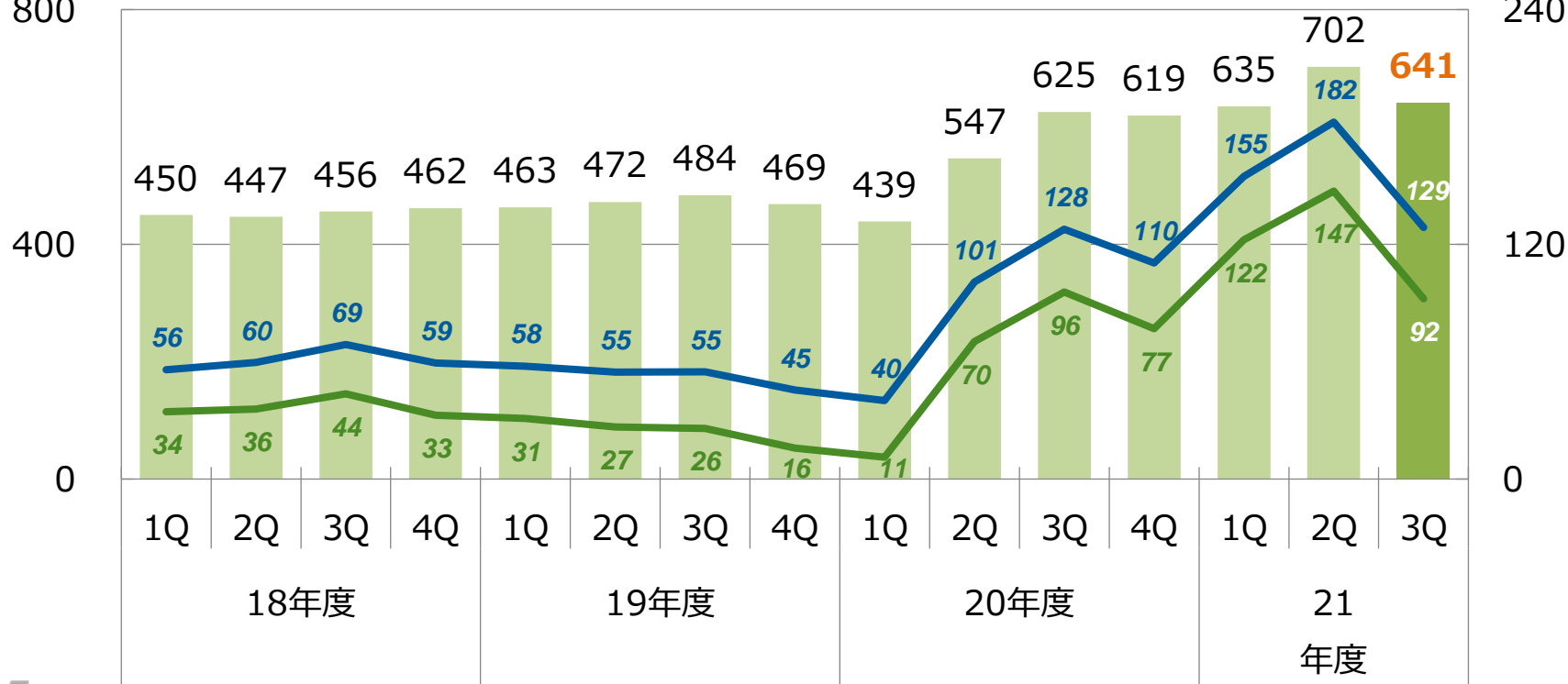


四半期毎の業績推移

売上高
(億円)
800

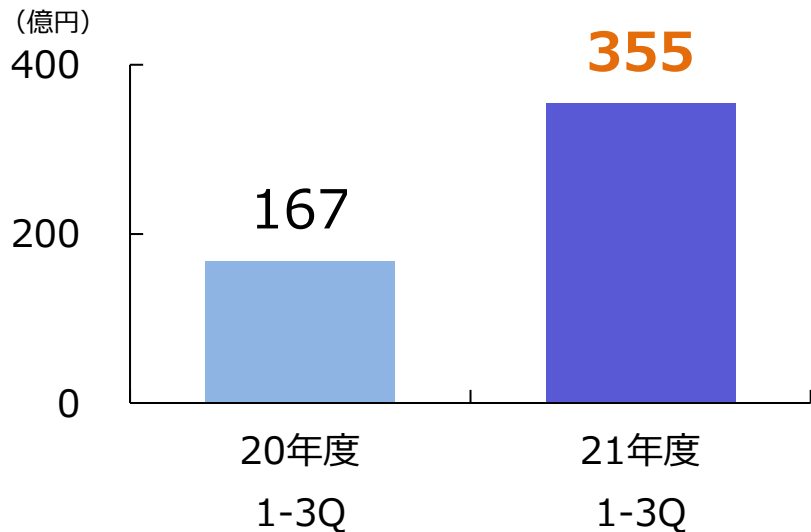
■ 売上高 ■ EBITDA ■ 営業利益

EBITDA、営業利益
(億円)
240



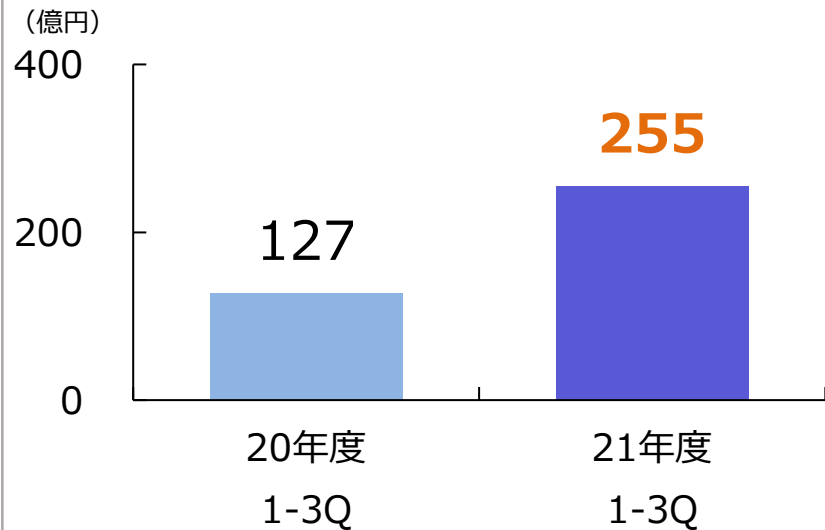
連結経常利益および四半期純利益

経常利益



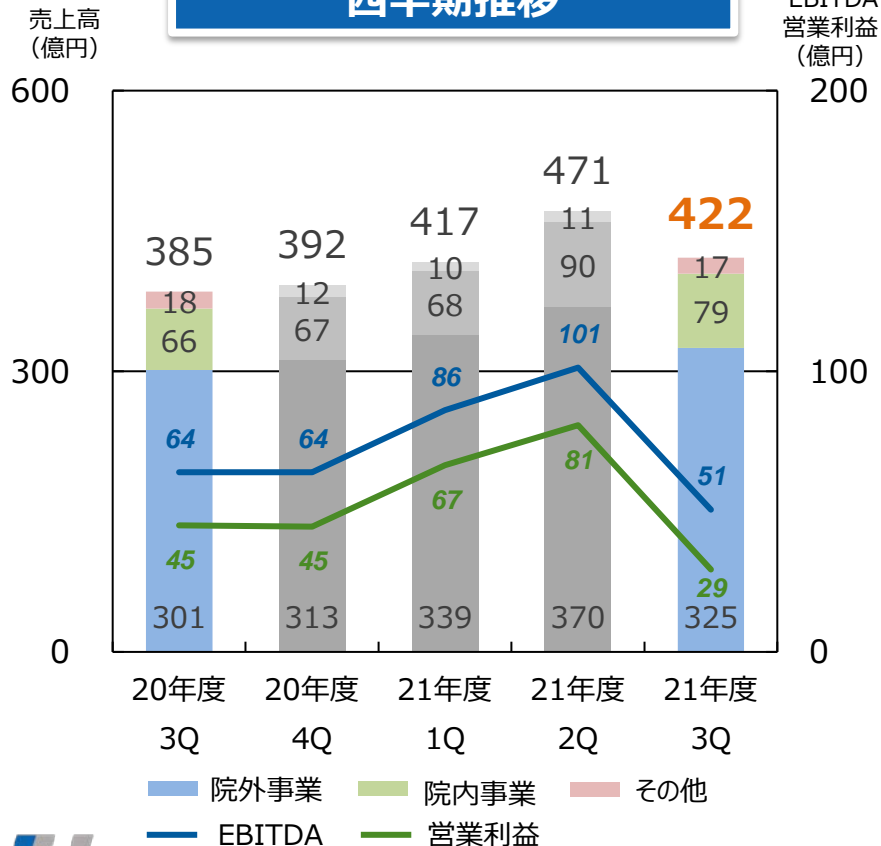
- ベンチャー投資ファンド運用益 +11.6億円
- 持分法による投資損失 ▲14.1億円
 - ✓ BMGL ▲4.4億円
 - ✓ 平安保険グループとのJV ▲9.7億円

四半期純利益



LTS事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	20年度 1-3Q	21年度 1-3Q	対前年同期比 増減	
売上高	1,017	1,310	+292.5	+28.8%
院外事業	809	1,033	+224.5	+27.8%
院内事業	173	238	+65.4	+37.9%
その他	36	38	+2.7	+7.4%
EBITDA	134	238	+104.6	+78.3%
営業利益	81	177	+95.3	+116.9%

売上高

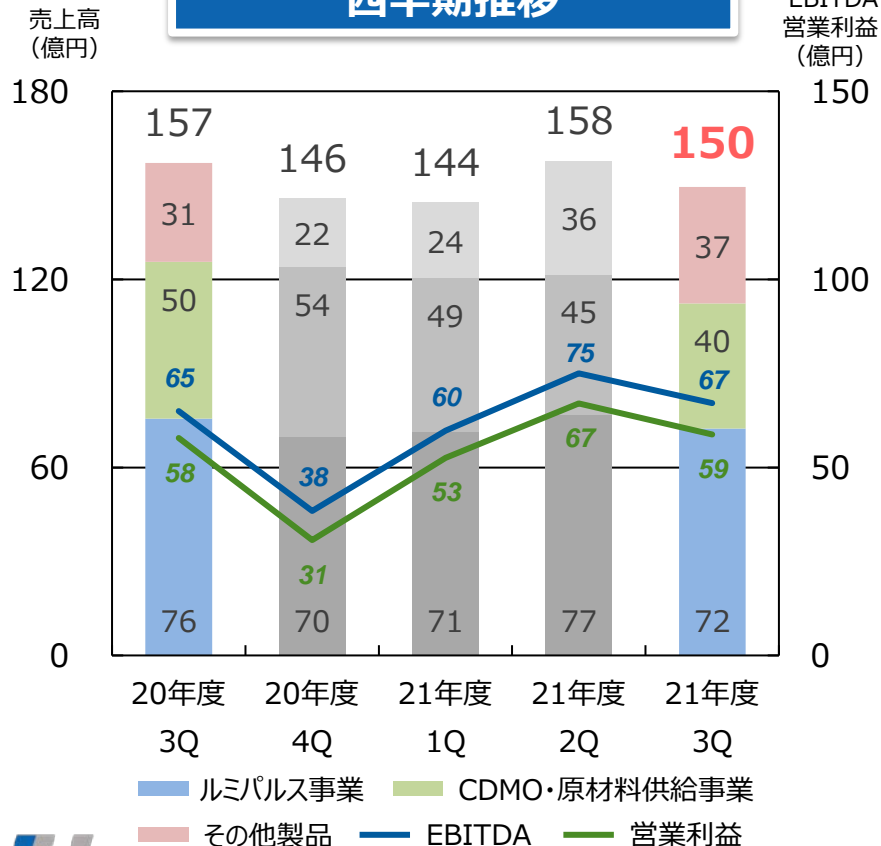
- 新型コロナウイルス関連検査の増加
(大規模イベント対応、PCR検査、空港検疫所をはじめとする高感度抗原定量検査、等)
- 遺伝子関連検査の増加
- 前年度減少した検査数の回復

営業利益

- 新型コロナウイルス関連検査による増収にともなう増益
- 検査数の回復による増収にともなう増益
- 新セントラルラボ関連費用
(上期：16億、3Q：18億)

IVD事業

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	20年度 1-3Q	21年度 1-3Q	対前年同期比 増減	
売上高	355	452	+97.3	+27.4%
ルミパルス	154	221	+66.1	+42.8%
国内	131	187	+55.3	+42.1%
海外	23	34	+10.8	+46.5%
CDMO・原材料	112	134	+22.7	+20.4%
その他	89	97	+8.5	+9.6%
EBITDA	121	202	+81.3	+67.5%
営業利益	97	178	+81.2	+83.6%

ルミパルス 内販売上高	32	61 ※	+29.1	+90.1%
-------------	----	------	-------	--------

※ 新型コロナウイルス関連検査試薬を中心とした売上高の増加

売上高

- 新型コロナウイルス関連による増収
(ルミパルスSARS-CoV-2 Ag、エスプラインSARS-CoV-2)
- 前年度減少した検査需要回復にともなう増収

営業利益

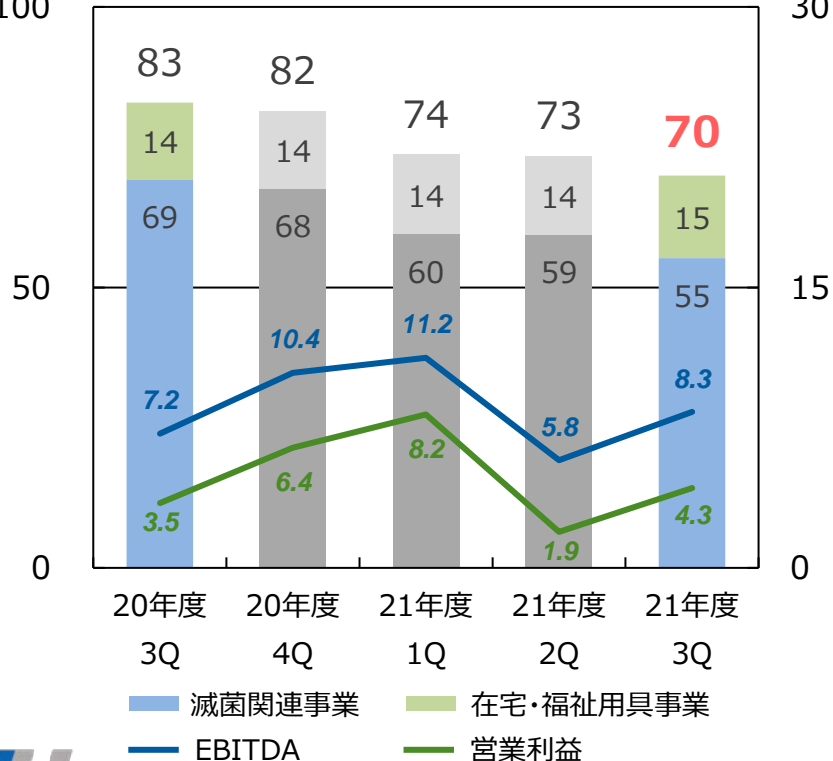
- 増収および内販拡大による増益

HS事業

四半期推移

売上高
(億円)

100



EBITDA
営業利益
(億円)

30

15

0

対前年同期比

(億円)

	20年度 1-3Q	21年度 1-3Q	対前年同期比 増減	
売上高	239	217	-21.9	-9.1%
滅菌関連	200	174	-25.5	-12.7%
在宅・福祉用具	40	43	+3.6	+9.1%
EBITDA	26.9	25.3	-1.5	-5.7%
営業利益	16.9	14.4	-2.5	-14.9%

売上高

- 医材預託品販売における収益認識に関する会計基準適用の影響 (-19億円)
- 大口顧客における医材預託品販売契約の終了
- 滅菌関連事業における院外滅菌および物販の伸長
- 在宅・福祉用具事業の伸長

営業利益

- FY21_2Qに貸倒引当金を計上 (▲2億円)

連結業績（対前年同期比）

(億円)

	20年度 1-3Q	21年度 1-3Q	対前年同期比 増減	
売上高	1,611	1,979	+368	+22.8%
LTS	1,017	1,310	+293	+28.8%
IVD	355	452	+97	+27.4%
HS	239	217	-22	-9.1%
営業利益 ※1	177 11.0%	362 18.3%	+185	+104.3%
LTS	81 8.0%	177 13.5%	+95	+116.9%
IVD	97 27.4%	178 39.5%	+81	+83.6%
HS	17 7.1%	14 6.6%	-3	-14.9%
経常利益	167 7.4%	355 20.0%	+188	+112.6%
四半期純利益	127 5.2%	255 14.6%	+128	+100.6%
EBITDA ※2	268 16.7%	466 23.5%	+197	+73.5%

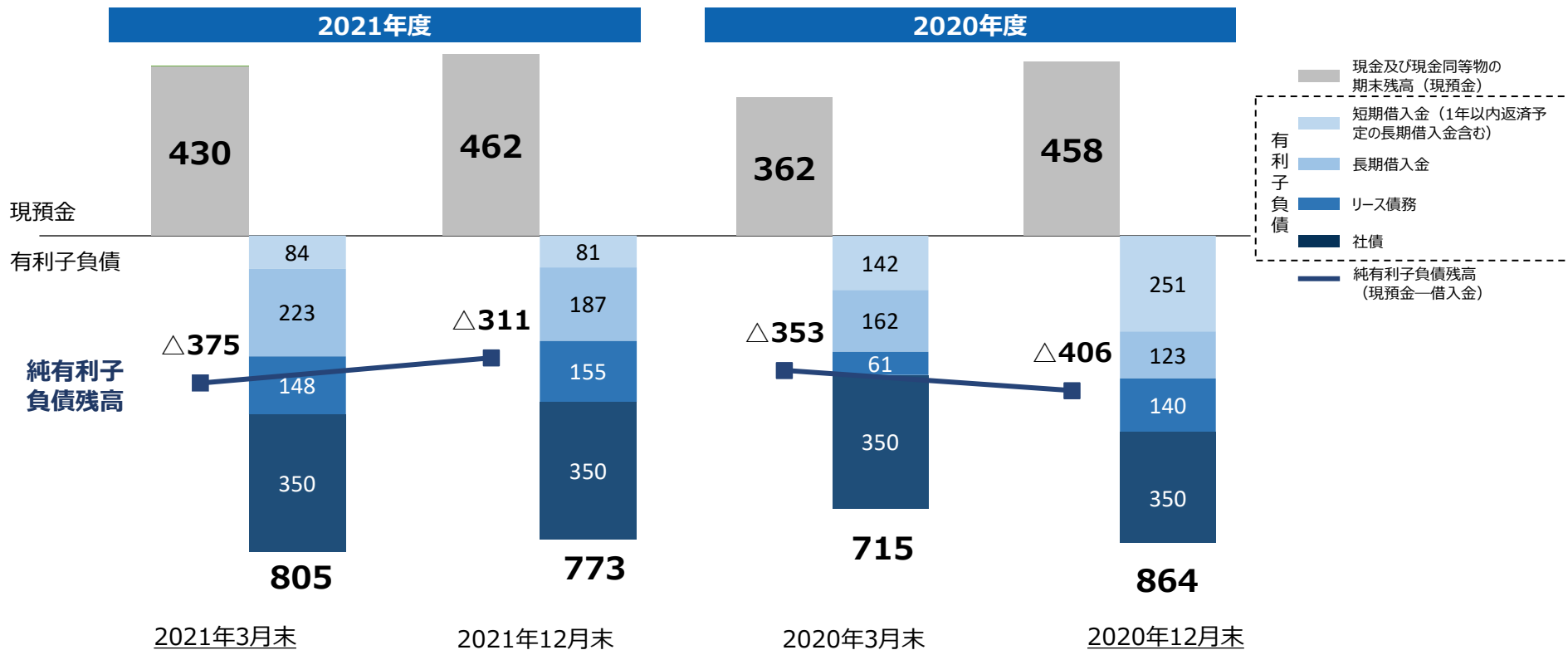
※1 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（20年度1-3Q：▲18.4億円、21年度1-3Q：▲7.8億円）

※2 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

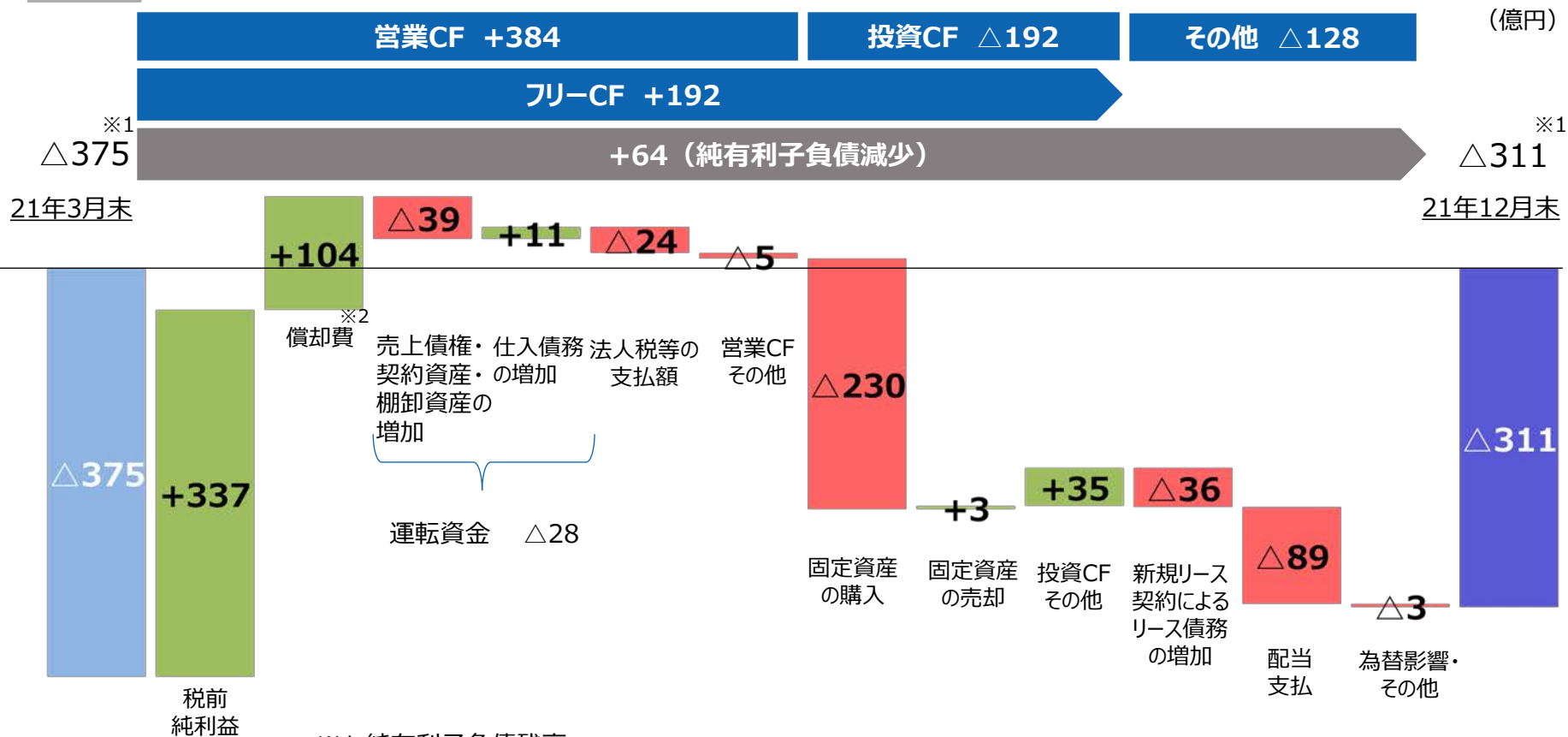
※3 各項目の右肩数字は、各売上に対する利益率

現預金・有利子負債残高

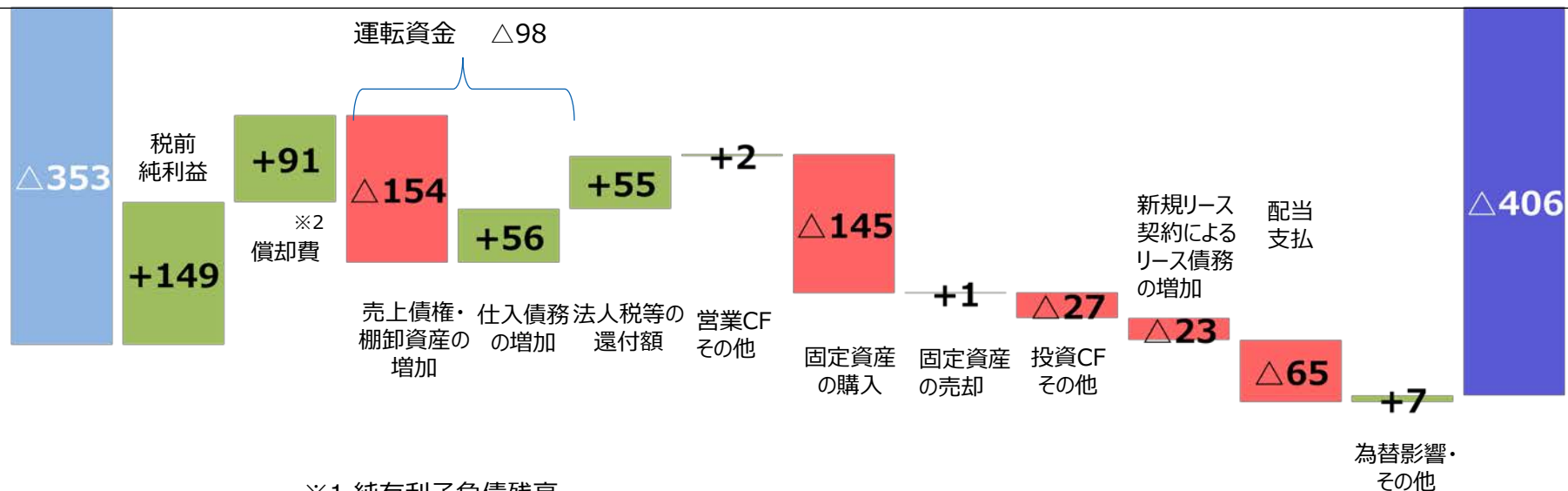
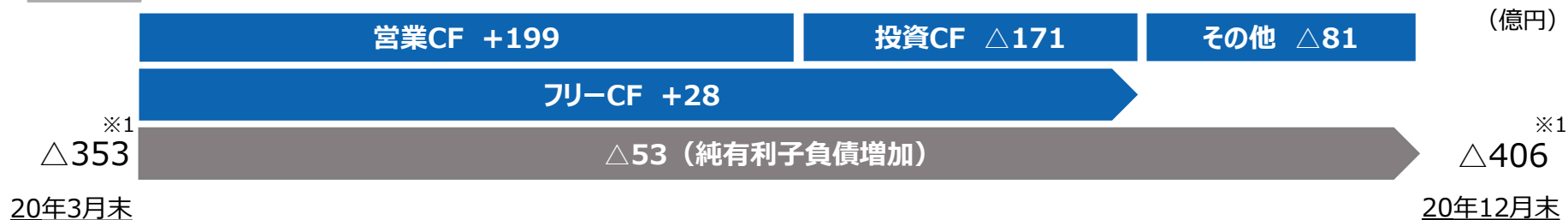
(億円)



2021年度3Q連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



2020年度3Q連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



※1 純有利子負債残高
 ※2 減価償却費+のれん償却額

ESG説明会について

- 株式市場へ当社のESG活動の取り組みをご説明する機会としてESG説明会の開催を決定

日程

- ✓ 2022年3月17日(木) 15:00-16:30
- ✓ ZOOMウェビナー (リンク等の詳細は後日ご案内)

Agenda

- ✓ トップコミットメントおよび人材領域
代表執行役社長 兼 グループCEO 竹内 成和
- ✓ 環境領域
執行役 木村 博昭
- ✓ 調達領域
プロキュアメント本部 本部長 多田 功
- ✓ 総括
執行役 兼 CFO 村上 敦子
- ✓ 質疑応答

【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

IR/SR部 TEL : 03-5909-3337

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。